



企業方針

我々は、ものづくりを通して、
自然と社会と人間に必要とされる企業を目指します。

松山工場

商号	株式会社エヌ・ピー・シー
設立	1992年12月
資本金	28億1,246万円（2024年8月31日現在）
代表者	代表取締役社長 伊藤 雅文
事業内容	各種装置の開発および提供 品目：太陽電池製造装置、FA装置、枚葉式真空貼合装置、真空断熱パネル封止装置等 太陽光パネルに関する製品およびサービスの提供 太陽光パネル検査サービス、太陽光パネル検査装置、太陽光パネルのリユース・リサイクルサービス、太陽光パネル解体装置等 人工光植物工場で栽培した野菜の販売

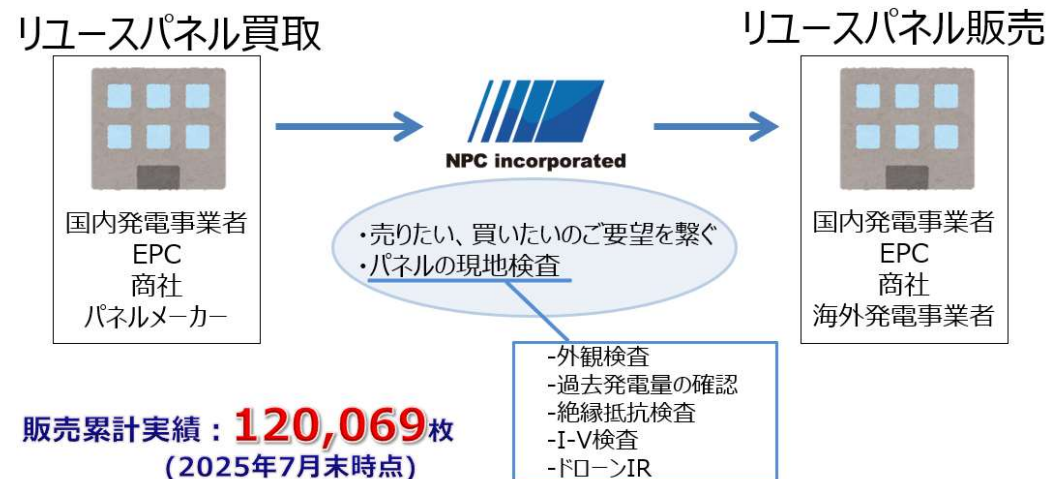
地域貢献（地域振興への貢献度）

■ 地域産業・雇用

- ・松山工場を拠点とした地域密着型ビジネス
- ・解体業者・金属回収業者・運搬業者との連携→商工業の活性化
- ・技術者育成・雇用創出→技能継承・人材定着

■ レジリエンス

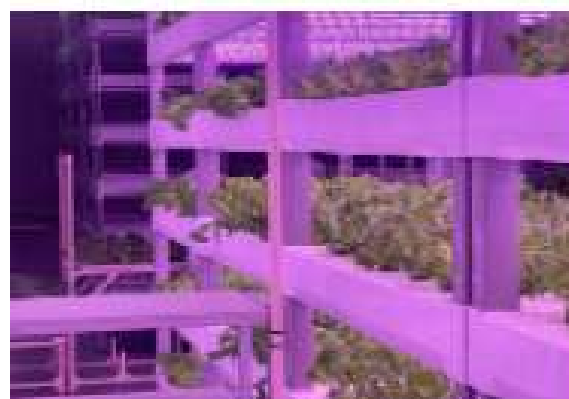
- ・植物工場による安定した農作物供給（天候に左右されない）
- ・リユースパネル電力活用→ 地域エネルギー自給率向上



当社が回収したリユースパネルを設置（200kW）、野菜栽培に必要な電力の一部を賄う



リユースパネルを用いた発電設備



生産の様子



テレビCM（当社HP、youtubeで公開中）

- ・「松山市みらいコネクト」参画→自治体連携
- ・地域業者が回収・処理を担い、地域完結型モデルを構築
- ・工場見学・サマーキッズスクール、松山フェスタ→地域住民に開かれた双方向コミュニケーション



新しかった道後温泉本館に使用されている靴箱のキーホルダー。
当社のリサイクル装置にて分離されたガラスを使用。産官学共同で
手掛けられ、愛媛大学が開発



サマーキッズスクールの様子



松山フェスタの様子

波及効果・先進性

■ 太陽光パネルリサイクルの開発・提供

- ・ガラス分離装置（ホットナイフ）

独自のホットナイフ分離法®によりガラスを割らずに分離します



分離後ガラス



ガラスカレット

リサイクルへ

- ・フレーム・J-Box分離装置（ディフレーター）

パネル投入後、フレーム4本とジャンクションボックスを約40秒で自動的に分離



■ 太陽光パネルの中間処理事業

- ・四国地方を中心に排出パネルを引き取り、当社松山工場にて中間処理を行う（愛媛県収集運搬許可を取得済）
- ・当社パネルリサイクル装置を用いて、ガラス、セル/EVAシート、アルミフレーム、J-Boxを回収

太陽光パネルの分離部材の重量比（太陽光パネル20kgの場合）



再資源化したリサイクル率の実績：95.1%（2023年7月末時点 当社松山工場での処理重量26.1t）

■ 当社太陽光パネルリサイクル装置納入実績（納入予定含む） 国内外で拡大中（31件導入）

2025年6月まで

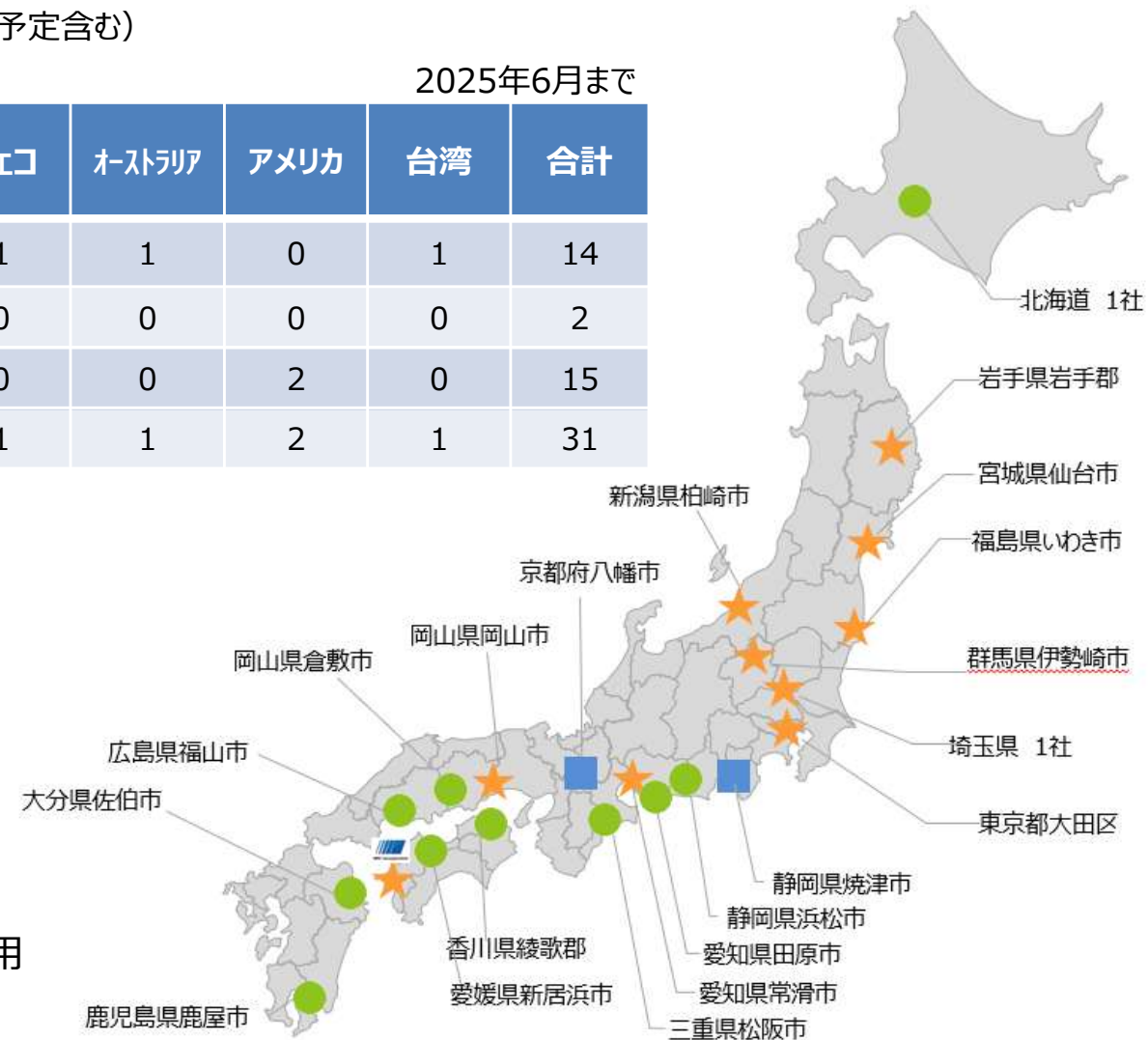
納入台数	日本	フランス	チェコ	オーストラリア	アメリカ	台湾	合計
ガラス分離装置&フレーム・J-Box分離装置	10	1	1	1	0	1	14
ガラス分離装置	2	0	0	0	0	0	2
フレーム・J-Box分離装置	10	3	0	0	2	0	15
合計	22	4	1	1	2	1	31

- ★ ガラス分離装置&フレーム・J-Box分離装置
- ガラス分離装置
- フレーム・J-Box分離装置

■ フランスの事例



- ・フランスの産廃業者 Envie 2EAquitaineが当社リサイクル装置を導入
 - ・ガラスを割らずに分離できる→再生ガラスの原料として活用
- 2025年3月末時点 600t約60,000枚の処理実績



愛媛発 “地域 × 技術 × 脱炭素”の挑戦 松山モデルから世界へ広がる循環型社会